

登録コード	J5460300	開講年度	2026				
授業科目	経営史					担当教員	橋本 規之
英文授業名	Business History					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・2時限	対象学年	(23カリ対象科目) 経：3年/法：3年
講義室	経法第3講義室		授業区分	講義	遠隔授業科目		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				⇔	【授業の達成目標】	
	経法23加（2026改）・応用経済，経法23加・応用経済						
	専門知識を応用・実践する力として，計量的分析手法によるデータ解析を用いたリスクの定量的評価，実験経済学による社会制度の機能の検証，医療や福祉の現場における社会調査の手法を実践した地域の問題発掘，法の経済分析を通じた法制度の効果・影響の検証，などのスキルを習得し，経済の実情に即した政策提言，あるいは企業行動の決定を行うことができる能力を身につける。				⇔	専門知識を応用・実践する力として，イノベーションとマネジメント（あるいはビジネスと経営者）を軸に，経営史の流れと要点を理解できるようになる。	
	【2020年度以降カリキュラム対象】専門領域での基礎知識として，経済学に基づく論理的思考法及び統計的分析手法を身につける。そして，経済理論の応用分野として，金融，公共政策，法や制度の経済分析をテーマとする3つの専門コースで，専門知識を具体的な問題解決に実践する力を身につける。				⇔	専門領域での基礎知識として，イノベーションとマネジメント（あるいはビジネスと経営者）を軸に，経営史の流れと要点を理解できるようになる。	
	経法23加（2026改）・総合法律，経法23加・総合法律						
	環境問題や，企業や行政の組織内において，日々生起する諸問題について，理工学分野や経済学分野の思考方法にも一定の理解を持ち，総合的に解決していくことのできる能力を身につける。				⇔	様々な問題を総合的に解決していくことのできる能力を身につけるために，イノベーションとマネジメント（あるいはビジネスと経営者）を軸に，経営史の流れと要点を理解できるようになる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	18世紀の産業革命の時代から，21世紀の現在までを対象にして，ヨーロッパ，アメリカ，日本，アジア地域におけるビジネスとマネジメントの歴史を概観します。 各時期の政治・経済・社会・文化を踏まえて，市場環境への創造的な適応であるイノベーションの視点から，経営史を繙いていきます。 第1回～第8回は，ヨーロッパとアメリカの経営史を扱います。 第9回～第15回は，日本とアジアの経営史をとりあげます。						
(5)授業計画	第1回 イギリス産業革命の時代（1） 第2回 イギリス産業革命の時代（2） 第3回 アメリカ資本主義の誕生（1） 第4回 アメリカ資本主義の誕生（2） 第5回 大企業体制とチャンドラー経営史 第6回 20世紀前半の欧米ビジネス 第7回 20世紀後半の欧米ビジネス 第8回 現代（1990年代以降）の欧米ビジネス 第9回 明治期の工業化と企業家 第10回 財閥の時代（起源として江戸時代の商家経営も扱う） 第11回 大正期の都市化と電化 第12回 戦後復興期の政府と企業 第13回 高度成長期の企業家活動 第14回 日本的経営の時代 第15回 台頭するアジア企業 第15回の最後に，授業アンケートを実施します。						
(6)成績評価の方法	成績の評価は，中間試験と期末試験で行います。 中間試験は，eALPSを通じて行います。第8回終了後，1週間以内に受験してください。 期末試験は，期末試験期間中に，教室で行います。 中間試験の得点（100点満点）と期末試験の得点（100点満点）を合計した点数を2で割って，小数点以下を切り上げた点数が，最終的な成績評価の得点となります。						
(7)成績評価の基準	中間試験と期末試験の得点に基づき，次のような成績評価となります。 秀（90点～100点）：授業の理解度が「卓越している」 優（80点～89点）：授業の理解度が「かなり上にある」 良（70点～79点）：授業の理解度が「やや上にある」 可（60点～69点）：授業の理解度が「合格水準にある」						

(7)成績評価の基準	不可（60点未満）：授業の理解度が「合格水準に達していない」
(8)事前事後学習の内容	初回の授業で紹介する参考書は、事前の予習にも活用することができます。事後の学習では、講義資料をよく復習することが肝心です。各スライドの脚注や末尾の参考文献リストを復習や発展的な学習として利用してください。
(9)履修上の注意	授業で使うパワーポイント教材（PDF）は、原則、授業の前日に配布します。履修登録者の電子メールのアドレスが判明するまでは、eALPSに掲載します。判明後は、履修登録者に直接送信します。授業中に書き込みやメモがとれるように印刷などしておくとう便利でしょう。 【関連授業の案内】 本授業は、「経営組織論」（前期・火4）や「ビジネス・システム論」（後期・木3）と相互に補完的な関係にあります。特に「ビジネス・システム論」とは密接な関係にありますので、合わせて履修すると学習効果が高まります。
(10)質問,相談への対応	授業後の教室、電子メール、zoom、研究室での面談（事前に予約のこと）で対応します。メール・アドレス：nhashimo@shinshu-u.ac.jp
【教科書】	毎回配布するパワーポイント教材が、事実上の教科書になります。
【参考書】	授業全体に関する参考書については、初回の授業で説明・紹介します。また、テーマ別・トピック別の参考書は、各回の授業の参考文献リストの形で紹介しています。